

赤花型のクマノアシツメクサの記録 (追加報告)

苫小牧市 小玉 愛子

はじめに

昨年、筆者は苫小牧市 JR 沼ノ端駅付近の拓勇地区住宅地の中央分離帯で、確認事例がほとんど無い外来種クマノアシツメクサ (*Anthyllis vulneraria* L.) の赤花型を確認し本誌に報告した (小玉 2017)。翌年、同地点を確認したところ、歩道への同種の逸出が確認され、今後分布が拡大する可能性が高いと判断し、ここに追加報告をする。

確認の状況

2017年6月9日、昨年を目撃地点である苫小牧市拓勇地区の国道36号線から東側に直進する2車線の市道東西約400mを目視により確認した。中央分離帯では、エノコログサ、コヌカグサなどのイネ科草本類、ヒメジョオン、エゾタンポポ、ハイコウリンタンポポ、メマツヨイグサ、ハマハタザオ、ヒトフサニワゼキショウ、ナガボノシロワレモコウ、キバナコウリンタンポポなどと混在して生育し、群落形成の状況から、適度な刈り取りなどにより背の高



図1 歩道で確認した株の様子

い草本類が生育していない場所を好む傾向が見られた。昨年は両側の歩道周辺の住宅地や緑地帯では生育していなかったが、今回は東西両側の歩道数カ所で確認できた。確認できた場所はいずれもバス停周辺の裸地、縁石脇など草刈の痕跡がある場所で、今後も草刈が行われる緑地帯、造成後の空地 (裸地) などをニッチとして分布が拡大する可能性が高いと思われる。

赤花のクマノアシツメクサの移入に関する追加情報

五十嵐博氏を經由し、本会会員より同種が「アカバナゲンゲ」の商品名で販売されていた、という情報を入手した。今後、植栽などの影響で同種の分布が他の地域でも広がる可能性も高いと考えられる。

(苫小牧市美術博物館)

引用文献

小玉愛子. 2017. 赤花のクマノアシツメクサの記録. 北方山草 34:35-37.



図2 草刈りの影響を受けた地点の株の様子